

# 入野小学校 校長室だより

2014. 4. 24(木) No. 3 文責：芝

## 心で見ないと…

高知市に進学する姉を、中村駅で見送った  
保育園児の話。

「お姉ちゃん、泣きよった。アンパンマン列  
車で行ったに、泣きよった。」

それを聞いた保育士さんも、「私も泣きそう  
になりました」と書いていました。

希望と不安が入り交じる春。どうか、希望  
から湧き出る力の方が、不安から滲む怯みよ  
り勝りますようにと願うばかりです。

新学期も3週間が過ぎようとしています。  
子どもたちのスタートはどうだったでしょう  
か。22日(火)朝、児童会の役員さんが行っ  
ている『あいさつ運動』に私も参加したのです  
が、登校する子どもたちからは明るく元気な  
様子が感じ取れましたので、私も元気をもら  
えた気がしました。まずは、希望が勝ったス  
タートだったのではないかと思ったことです。

その時に「素敵だなあ」と感じたのが、正  
門脇のフジの花を見上げていった子どもたち。  
ひとりは少し歩みを緩め、「雨で花が散った」  
とつぶやきながら玄關に入っていました。  
少し後に来た三人組は、何やら楽しげに談笑  
しながらフジの花を見上げていきました。

心が伴っていないと『見ているけれど見え



毎週水曜日『読み聞  
かせボランティア』さ  
んの活動の様子です。

いない、聞こえているけれど聴いていない』  
ことがよくあります。サン・テグジュペリの  
『星の王子さま』で、キツネが王子さまに言  
う「心で見ないと、ものごとはよく見えない」  
ということも、こういうことかな、と思いな  
がら様子を眺めていました。

季節の移り変わり、自然の様子を楽しめる  
人でありたいですね。確かに、人生をより楽  
しく生きていけそうな気がします。

## 不思議の理由は…

さっそく『校長室だよりNo. 2：不思議な顔  
が不思議』の「不思議の理由」を教えていた  
だき、不思議が解消しました。

- 前任の筒井校長先生は挟むタイプのネ  
クタイピンをいくつも持っていた。
- 全部『魚シリーズ』だった。
- 子どもたちが関心を持って見ていた。

なるほどね、そういうことか…と納得です。  
とすると、子どもから私への「何が付いちよ  
うが？」の問いも、何かはっきりした物の名  
前(魚の名前のように)を期待したのかもしれ  
ません。想像すると楽しくなります。

もうひとつ、これも『校長室だよりNo. 2』  
ワンちゃんへのご挨拶の続きのお話。

そのお話が書かれていた『校長室だより』  
を、1年生がこのワンちゃんの家の方に学校  
帰りに見せに行ったとのこと。それも、  
わざわざ畑の方へ。これも素敵なお話です。  
感心を超えて感動してしまいました。とても  
うれしいお話に、心から感謝です。

最後になりましたが、今週は参観日・家庭  
訪問と、保護者の皆さんには大変お世話にな  
りました。ありがとうございました。今後と  
もより良い学校づくりのために、皆さんのご  
協力をお願いいたします。